

## 第6回北勢線の魅力を探る ～つわものどもが夢のあと～

開催日 2006年3月19日(日)  
参加者 127名(内子ども5名)  
協力 東一色大谷神社氏子総代、大泉大谷神社氏子総代  
おきもの工芸館種村学館長  
太田賢治さん、伊藤紘一さん、出口正雄さん

### 大泉駅～東一色大谷神社～岡古墳群・子良新田神明社

東一色大谷神社の案内役は、伊藤紘一さんです。当社の創立年代は不詳。昔は大谷野摩里井上神社といい、767年春日神社を合祀したと伝えられている。大泉の大谷神社と延喜式内社について係争し、未決定である。神社の東南に清水の湧き出る池があり、この水は万病に効く霊泉で、大泉の名はここから生まれたという伝説がある。現在はきれいに整備されて、碑が建てられている。



霊泉湧出之跡

子良新田神明社では太田賢治さんから境内周辺に所在する岡古墳群について聞く。神社の北側には2つの古墳が比較的良好な状態で残されている。全長41.5m、後円直径24.6mの前方後円墳である1号墳の後円部には2つの石碑が建っている。向かって右側の石碑の表



岡古墳群1号墳石

面には「員弁町指定文化財 史蹟 岡一号古墳」、裏面には「昭和五十八年二月指定 員弁町教育委員会」と刻まれている。1号墳は6世紀に築かれ、追葬可能な横穴式石室を有している。大正時代に後円部で井戸が掘削された際には水晶製勾玉や剣が見つかっている。

子良新田神明社は天照大御神・天児屋根命・火之迦具土神を祭神とする神社である。当社は字岡山に鎮座した子良新田神明社と字丁田に鎮座した春日神社の2社を合祀したものである。両社は明治44年(1911)4月6日に東一色大谷神社に合祀されたが、残されていた子良新田神明社の社殿に昭和26年(1951)3月30日に分祀された。

### おきもの工芸館～金井城址～円願寺

おきもの工芸館の種村館長さんの歓迎の心遣いが、工芸館の隅々に感じられた。再生品利用とは思えない素晴らしい木工芸作品の説明を順番に聞いた。もう少し館長さんのお話

を聞きたいという雰囲気だったが、進行時間の遅れを考え、次の目的地の金井城跡に向かった。

そのころから、黒い雲とともに雪が流れてきた。北金井の集落を抜けると、強い風が一段と寒く感じられる。前方のこんもりした木立が金井城跡である。空堀を通過して城内に入ると、ぐるりは土塁（土手）に囲まれている。冬枯れの木や草を掻き分けながらの探索である。夏にはとても立ち入れない処だ。地元の文化財保護委員である出口正雄さんの解説が始まる。この城は近江の佐々木氏の一族である種村氏が来て作った城で、員弁川の河岸段丘にある。建物は残存していないが、いなべ地域では保存の良い城跡で、いなべ市指定史跡となっている。その案内板には誤字（永正二年を永年二年、永禄十一年を永年十一年と書いてある）や表現が不十分な点があるのは残念である。



円願寺にある宝篋印塔と五輪塔

昭和 56 年（1981）に近くの川原で砂利採取していた際に、種村氏の一族を弔ったと思われる宝篋印塔と五輪塔の一部が出土した。これを円願寺の境内に安置してある。円願寺の鐘楼は明治 10 年（1877）に桑名別院から移築したと伝えられる。

### 大泉大谷神社～蕎麦打ち体験

大泉大谷神社で出口正雄さんから説明を聞いた。この神社は、南北に長いということからこのあたりは長宮と呼ばれ、その境内には小学校や J A があり、さらに北勢線が横切っているということでちょっと珍しいところである。元々は川南に祀られていたが、明応 8 年（1499 年）の員弁川大洪水により全村流失し、命からがらこの台地に登ってきた大泉村の人たちにより現在の地に祀られた。旧大谷村の遺跡は新貝の地に残されている。



大泉大谷神社

ここで一先ず解散となり、多くの方は北勢線対策室で弁当を食べた。午後は希望者だけ『うりぼう』で“蕎麦打ち体験”である。大人 9 名、子ども 5 名の参加があった。講師の方がまずお手本を示してくださり、その後いよいよ自分たちで蕎麦打ちに挑戦です。補助に 2 名の方がいてくださり、実際に指導してくださったので、みんなおいしい蕎麦が出来上がった。最後には蕎麦のおいしいゆで方も教えてもらい、自分で打った蕎麦を試食して大満足でした。夕飯のお土産の蕎麦を手にして、大泉駅から乗車して帰宅の途についた。